

総義歯補綴学Ⅰ

責任者名：飯沼 利光(歯科補綴学Ⅰ 教授)

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

飯沼 利光(歯科補綴学Ⅰ 教授)

高津 匡樹(歯科補綴学Ⅰ 准教授)

池田 貴之(歯科補綴学Ⅰ 専任講師)

西尾 健介(歯科補綴学Ⅰ 助教)

◆一般目標 (GIO)

高齢あるいは無歯顎となることにより、顎口腔領域の形態（構造）と機能には変化が生じる。これが口腔や全身の身体的、精神的健康状態に及ぼす影響を理解するために、その変化の特徴やこれに貢献する補綴治療の理論と臨床術式を理解する。

◆到達目標 (SBO s)

- ・高齢社会の現状と社会福祉制度について具体的に述べることができる。
- ・加齢が全身及び口腔に及ぼす影響を説明できる。
- ・総義歯の目的及び意義を説明できる。
- ・無歯顎者の診察に必要な項目を列挙できる。
- ・総義歯の特徴および具備する条件について説明できる。
- ・総義歯製作のための前処置及び印象採得を説明できる。

◆評価方法

平常試験で評価する。

平常試験のフィードバックは、次回以降の講義において正答率が低かった内容について解説を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
飯沼 利光	木曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第Ⅰ講座医局	iinuma.toshimitsu@nihon-u.ac.jp	
高津 匡樹	木曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第Ⅰ講座医局	takatsu.masaki@nihon-u.ac.jp	
池田 貴之	木曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第Ⅰ講座医局	ikedata.kayuki@nihon-u.ac.jp	

西尾 健介	木曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座医局	nishio.kennsuke@nihon-u.ac.jp	
-------	----------------------------------	-------------------------------	--

◆授業の方法

総義歯を製作するために必要な基本的知識に加えて、対象となる患者、とくに高齢者の口腔機能の向上が全身の機能向上にもたらす影響について、臨床の現場で活用されている知識・技能に加えて、最新の研究情報等について視覚的素材を用いながら講義する。さらに、平常時試験においては、行われた講義に対する理解度の確認を客観的試験で行う。

【実務経験】

飯沼利光：現在、在職している日本大学歯学部付属歯科病院総義歯補綴科での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

高津匡樹：現在、在職している日本大学歯学部付属歯科病院総義歯補綴科での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

池田貴之：現在、在職している日本大学歯学部付属歯科病院総義歯補綴科での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

西尾健介：現在、在職している日本大学歯学部付属歯科病院総義歯補綴科での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	無歯学補綴治療学	市川哲雄、大川周治 ほか	医師薬出版	2016
参考書	無歯顎補綴治療の基本	祇園白信仁、大川周治 ほか	口腔保健協会	2014
参考書	高齢者歯科診療ガイドブック	下川和弘、桜井 薫 ほか	口腔保健協会	2010
プリント	授業内容に準じ作製したプリントを適宜配布する			
参考書	よくわかる高齢者歯科学	佐藤裕二、植田耕一郎、菊谷 武	永末書店	2017

◆DP・CP

[DP-3] コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンス：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP-4] コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[CP-4] 歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

[CP-5] 研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に教科書を読んで、当各項目の内容について予習して臨むこと。

授業中のノートや配布された資料を利用した復習を行うこと。

◆準備学習時間

それぞれの授業時間について、授業時間に相当する時間をそれぞれ予習ならびに復習時間として設け、予定表に記載された学習項目を予習では教科書を参考に、さらに復習ではこれに加え配布されたプリント等の資料を利用し理解力を深めること。

◆全学年を通しての関連教科

歯科医学序論 I (第 1 学年・後期)

歯科理工学 I (第 2 学年・後期)

口腔生理学 (第 2 学年・後期)

口腔組織学 (第 2 学年・後期)

口腔衛生学 (第 3 学年・前期)

歯冠補綴学 (第 3 学年・後期)

架橋義歯補綴学 (第 4 学年・前期)

部分床義歯補綴学 I (第 4 学年・前期)

顎機能治療学 (第 4 学年・前期)

総義歯補綴学 II (第 4 学年・後期)

固定制義歯補綴学 (第 4 学年・後期)

部分床義歯補綴学 II (第 4 学年・後期)

顎機能分析学 (第 4 学年・後期)

顎機能治療学 (第 4 学年・後期)

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.14	4	1. 高齢者歯科概論 2. 老化のメカニズム	・超高齢社会において高齢者に質が高く社会の一員としての生活を提供するために、高齢者歯科が果たす役割を具体的に述べることができる。 ・老化が衰退現象であることを理解し、身体諸器官、機能の老化および加齢変化について説明できる。	飯沼 利光	C-3-3) 組織、器官及び個体の老化

2		5.21	4	3. 高齢者の社会保障と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のための社会保障制度，介護保険，後期高齢者医療制度などについて学び，高齢者に対する医療と福祉の在り方について述べるができる。 	飯沼 利光	B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度
3		5.28	4	4. 高齢者の精神的，心理的特徴 5. 高齢者の全身疾患 「平常試験」	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の知的機能の変化，精神・心理の変化，認知機能障害，喪失体験，老人性うつ，パーソナリティーの変化について説明できる。 ・精神機能の老化と低下に伴って高齢者によく見られる精神病態を具体的に列挙できる。 ・高齢者に多く見られる全身疾患（高血圧症，心疾患，脳血管障害，糖尿病，パーキンソン病など）について列挙できる。 	飯沼 利光	C-3-3) 組織、器官及び個体の老化
4		6.4	4	6. 高齢者の顎口腔領域の疾患 7. 高齢者における口腔の変化と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の顎口腔領域には，高齢者に特徴的に高い頻度で観られる疾患と全身性疾患を反映した疾患とがあり，これらの病態を列挙できる。 ・歯，歯槽骨，歯周組織，顎関節などは高齢となることで特有な加齢変化を示し，それに伴って対処法も多様で異なっているので，的確な対処の基本について述べるができる。 	飯沼 利光	C-3-3) 組織、器官及び個体の老化 E-5-1) 高齢者の歯科治療
5		6.11	4	8. 無歯顎者機能再建の理論と概略 「平常試験」	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床スライドなどの視覚素材から，無歯顎者の喪失し障害された機能を再建するための理論と，その機能回復で行う治療の過程を列挙できる。 ・歯科医学の中で無歯顎機能再建の占める位置と役割，重要性について説明できる。 ・総義歯補綴を実際の臨床から学び，理論に基づいた術式を応用することの重要性を説明できる。 	飯沼 利光	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療

					<ul style="list-style-type: none"> ・無歯顎であることに加えて社会環境なども変化し、色々な悩みを抱えている無歯顎患者の実態を説明できる。 		
6		6.18	4	9. 無歯顎者に対する補綴装置	<ul style="list-style-type: none"> ・無歯顎者が装着する人工臓器である義歯（総義歯、全部床義歯）の目的別分類（最終義歯、暫間義歯など）、構成要素（人工歯、義歯床）とその材料学的性質を列挙できる。 ・総義歯を装着することの機能的および社会的な意義を具体的に述べることができる。 	飯沼 利光	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療
7		6.25	4	10. 無歯顎者の特徴 11. 無歯顎者の医療面接 「平常試験」	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の喪失に伴う顔貌、顎堤形態、歯槽骨および感覚の変化について説明できる。 ・無歯顎堤の特徴的な解剖学的ランドマークを列挙できる。 ・無歯顎堤の顎堤弓形態および吸収程度による分類を説明できる。 ・高齢な総義歯患者は特徴ある精神状態や特殊環境を持っている場合が多いため、それぞれの特徴を踏まえた医療面接の意義を説明できる。 	飯沼 利光	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療
8		7.2	4	12. 無歯顎者の診察 1) 一般的診察 2) 局所的診察	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一般診察項目と情報収集の重要性を説明できる。 ・口腔外（顔貌、頬、筋など）、口腔内（顎堤の形態・組織性状・感覚など）および研究用模型による口腔内（顎堤形態、支持域の広さなど）の診察項目を列挙できる。 	西尾 健介	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療
9		7.9	4	12. 無歯顎者の診察 3) 旧義歯の診察	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯床形態、義歯床の適合状態などを旧義歯で診察し、治療に役立つ方策を説明できる。 	西尾 健介	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療

				13. 無歯顎者の検査 「平常試験」	<ul style="list-style-type: none"> ・顎堤粘膜，唾液，下顎運動，構音，筋電図，エックス線などの検査で得られる情報とその役立て方を説明できる。 ・診察の結果から総合的にプロブレムリストを作成し，初期治療計画の立案からインフォームドコンセントの確立に至る過程を説明できる。 		
10		7.16	4	14. 総義歯の維持，安定，支持	<ul style="list-style-type: none"> ・装着した総義歯が機能を果たすために維持がどの様に役立っているかを理解し，維持機構を物理的維持と解剖学的維持に分類して説明できる。 ・顎堤形態，人工歯の位置，咬合平衡などが安定に関与する機構を説明できる。 	高津 匡樹	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療
11		7.30	4	14. 総義歯の維持，安定，支持 「平常試験」	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯床粘膜面の面積，顎堤粘膜の性状などの因子が支持に関与する機構を説明できる。 	高津 匡樹	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療
12		8.6	4	15. 前処置	<ul style="list-style-type: none"> ・前処置の重要性を理解し，口腔外科的前処置および薬物学的前処置について列挙できる。 ・嘔吐反射に対する処置を説明できる。 ・補綴学的前処置を列挙できる。 	高津 匡樹	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療
13		8.13	4	16. 印象採得 1)印象法の種類と材料	<ul style="list-style-type: none"> ・無歯顎者の印象採得は，機能再建のための総義歯製作と機能的および構造的な予後に影響を与える重要な因子であることを説明できる。 ・印象法の種類（印象材の組合せ，目的別，粘膜への圧力別，機能別，印象材別）と材料の特徴を理解し，義歯床下組織の条件に合致した印象理論と術式を述べることができる。 	池田 貴之	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）

14		8.20	4	16. 印象採得 2)概形印象 3)研究用模型 4)個人トレー	<ul style="list-style-type: none"> ・概形印象は総義歯製作で口腔を侵襲する最初の過程であり、円滑な印象操作が以後の製作過程に影響を及ぼすことを理解し、その重要性和満たすべき要件について説明できる。 ・研究用模型での診査と診断、義歯の設計とインフォームドコンセント確立への応用について具体的に述べるができる。 ・精密印象法と義歯装着環境の条件に合致した個人トレーの具備条件（外形、スペース量、リリースなど）を列挙できる。 	池田 貴之	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）
15		8.27	4	16. 印象採得 5)精密印象 6)作業用模型 「平常試験」	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯床下組織の保全と機能再建を目的とする精密印象採得法について説明できる。 ・筋圧形成と選択加圧印象が臨床で多用される理由を説明できる。 ・作業用模型は、総義歯製作の全過程で使用される重要な模型であることを認識し、製作と取扱に注意が必要であることを説明できる。 ・作業用模型の製作法、目的・意義、緩衝法、後堤法およびブロックアウトについて研究用模型と対比して説明できる。 	池田 貴之	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）

